

まちづくり・観光振興の先進地 石川県『内灘町』・『宝達志水町』に学ぶ

委員長 庄山 忠文

10月22日より2泊3日で石川県内灘町、宝達志水町、石川県立歴史博物館を研修しました。

最初に内灘町へ行き、我々の目的たる研修は「まちづくり基本条例制定の件」であります。基本条例は「自分達の町は自分達で作る」をキーワードにその町を構成する町民・議会・行政のそれぞれの役割や責任、又、まちづくりの進め方等を明確にし、条例でわかりやすく定め互いに協力しながらまちづくりに取り組んでいく事が重要であるとする理念から、先進地の石川県内灘町に学びました。

まず町の概要は、金沢市のベッドタウンとして栄えており、人口26,787名、総面積20・38km²で砂丘と埋

め立て地でできている。町の財政は、歳入歳出74億9,000万、議員数16名、主産業は農業で、石川県の生乳生産量の43%を占めている。工業では繊維業があり、又、水産では沿岸漁業がさかんとした。研修内容は住民主体のまちづくりはどのような形で作られていったのか。まず最初に町民によるまちづくり町民会議を開き、そこで考案されたのを検討委員会により協議し、それからまちづくり基本条例案という様な形で生まれたとの事でした。

23年には条例制定の予定であるが、なぜ必要なのか。町作り基本条例策定の必要性の背景には地方分権、行財政改革、少子高齢化、人口減少があるからであり、これからの

方向性として住民自治の充実、町の自立性、共同のまちづくり等を推進していかなければならないとの事で、我々も町民によるまちづくりの必要性を実感して内灘町の研修を終えました。

次に石川県の中央、能登の最南部に位置する宝達志水町で観光振興について研修を行いました。まず観光の要所として「旧大庄屋、喜多家」を現地視察し、その後、町長・議長の出席の元、宝達志水町の概要説明を受けました。宝達志水町は人口15,049名面積111・68km²で議員定数14名、歳入歳出72億1,554万3,000円、二次産業、三次産業の多い町で、能登半島の入り口にあたり観光客の往来が多いとの事。町

の観光振興はどの様にされているのか？計画等を議題にし協議しました。

観光振興については
①地域資源を生かした観光イベント

②他産業との連帯による振興
③能登半島全体による広域振興

この様な事柄を主として振興をやっている。目玉の旧家の喜多家や千里浜海水浴場、世界で3カ所しかない車で走れる千里浜ドライブウェイ等を源にして民間と連帯し宿泊施設等を充実させ、集客につなげなければとの事でした。

次に、石川県立歴史博物館を研修しました。博物館は、旧陸軍兵器庫後で明治42年に建てられ、今日にいたっており、レンガ作り2階建て長さ90m、3連棟あり、わが国の数少ない貴重なものとされている活用にあたっては、建物の文化財としての価値と展示品設備との調和をはかり、展示品が整理されていました。国の3大庭園の兼六園が隣接しているので相乗効果もあり、展示内容は、加賀藩百万石か

ら明治、大正、激動の昭和の様子が展示されていました。23年の新幹線開通にともない、玉名、和木、山鹿、菊池と菊池川水系の流れをうまく利用し和水町に客がとまる様な今後の施策をしたいものだと思います、研修を終えました。



石川県内灘町役場での視察研修